

	まったく当てはまらない	どちらかといえば当てはまらない	どちらかといえば当てはまる	非常に当てはまる
0 : まったく当てはまらない				
1 : どちらかといえば、当てはまらない				
2 : どちらかといえば、当てはまる				
3 : 非常に当てはまる				
(37) 子どもが一日中一人で遊んでくればよいのと感じる	0	1	2	3
(38) 他に方法がなければ、体罰を用いるしかない	0	1	2	3
(39) 私の子どもなのに、私のして欲しいことをいちいち指示しなければならぬのは、子どもが私のことを尊敬していないからだと感じる	0	1	2	3
(40) 子どもの頃、親に言われたことが原因で、「私はいらぬ子なんだ」と感じた	0	1	2	3
(41) 子どもが泣き止まないと、どうしていいかわからなくなる	0	1	2	3
(42) 子どもとは、本来、親の思い通りにならないものだと思う	0	1	2	3
(43) 子育てが満足にできてこそ、一人前の女性であると言える	0	1	2	3
(44) 子どもを抱いていると、穏やかな気持ちになる	0	1	2	3
(45) もし可能ならば、子どもは私の親に育ててもらいたい	0	1	2	3
(46) 体罰はしつけの方法として効果がない	0	1	2	3
(47) 子どもが私に対して悪意を抱いているような気がする	0	1	2	3
(48) 子どもは泣くのが仕事だと思う	0	1	2	3
(49) 子どもが思い通りにならないと、周囲から「だめな親」だと思われてしまう気がする	0	1	2	3
(50) 子育ての方法を人に教えてもらうのは、親として恥ずかしいことだと感じる	0	1	2	3
(51) 子どもを抱いていると、楽しい気分になる	0	1	2	3
(52) 子どもさえいなければ私の人生はもっといい方向に進んでいると思う	0	1	2	3
(53) 体罰は子どもに有害である	0	1	2	3
(54) 子どもが言うことをきかないのは、子どもの成長に伴う健康的な「自己主張」のあらわれだと思う	0	1	2	3
(55) 子どもの名前は親が決めるものだから、親族が口を挟むべきではない	0	1	2	3
(56) できれば子どもを抱かずにすごしたい	0	1	2	3
(57) 子どもが食べる(ミルクを飲む)のを嫌がると、子どもが私のことを好きではないのと感じる	0	1	2	3

Ⅷ. 保護者の虐待心性に関するチェックリスト(PAAC)

以下の各項目は、虐待傾向につながる保護者の心理的側面に関するものです。保護者との面接を進める中で、当該保護者にもっともあてはまると思われるものの□欄に×をつけるか、選択肢の番号を記入してください。なお、文中にある保護者の「不適切な行為」とは、児童相談所が「虐待」と認識している行為を指します。また、虐待事例ではないと判断している場合には、「経済的な理由で養育ができない」など、一時保護につながった理由を「不適切な行為」と考えて回答してください。

以下の項目に関し、それぞれの設問について保護者にもっとも当てはまると考えられるものの□に×を記入ください。

1. 子どもに対する不適切な行為に関する認識

1-1. 保護者は、自分の行為が親として不適切な行為であると認識できていますか？

- 完全にできている 部分的にできている 完全にできていない
不明

1-2. 保護者は、自分の行為の理由をどのように認識していますか？

- 自分や家族の問題であるとしている 自分と子どもの双方に問題があるとしている。
子どもに問題があるため、仕方がないとしている。 不明

1-3. 保護者は、子どもへの不適切な行為が子どもの心身の健康にとって有害であると認識していますか？

- 完全に認識している。 部分的に認識している。
まったく認識していない。 不明

1-4. 保護者は、子どもに対する不適切な行為につながる心理社会的要因(自身の成育歴や夫婦関係の問題など)について何らかの認識がありますか？

- 適切な認識をしている。 部分的に認識している。
まったく認識していない 不明

1-5. 保護者は、子どもに対する不適切な行為をやめようと思っていますか？

- 完全にやめようと思っている。 部分的にはやめようと思っている。
まったく思っていない。 不明

以下の項目に関して、「まったくそうである」の場合には0、「どちらかといえばそうである」の場合には1、「どちらかと言えばそうではない」の場合には2、「まったくそうではない」の場合には3を、「わからない」「未確認」の場合には4を、質問文の後の□に記入してください。

2. 育児疲労の程度

- 2-1. 保護者は、育児に疲れきっている。
 2-2. 保護者は、自分のエネルギー補給ができていない。
 2-3. 保護者は、ひとりきりになりたいと感じている。

3. 完璧な育児への欲求

- 3-1. 保護者は、育児を完璧にこなさないといけないと考えている。
 3-2. 保護者は、親だから育児は完璧にできて当然だと考えている。
 3-3. 女性には本能的に「母性」が備わっていると考えている。

4. 自信の欠如

- 4-1. 保護者は、自分の育児の方法に不安を感じている。
 4-2. 保護者は、子どもが思い通りに動かないと、どうしていいかわからなくなる。
 4-3. 保護者は、周囲から「駄目な親」だと見られているのではないかと不安を感じている。

5. 子どもの発達への期待水準

- 5-1. 保護者は、自分の子どもが他の子と比べて発達が遅いと感じている。
 5-2. 保護者は、子どもの年齢にそぐわない期待を子どもに持っている。
 5-3. 保護者は、早く子どもに自立して欲しいと感じている。

6. 自分の欲求に対する態度

- 5-1. 保護者は、子どもの欲求よりも自分の欲求を優先したいと思っている。
 5-2. 保護者は、子どもさえいなければ自分の人生はもっとうまくいくは
 5-3. 保護者は、子どもがいるために自分の楽しみが犠牲になってと感じている。

7. 子どもへの認知(被害感)

- 6-1. 保護者は、子どもが自分をわざと困らせていると感じている。
 6-2. 保護者は、子どもの問題のために自分が被害を受けていると感じている。
 6-3. 保護者は、子どもが自分に「悪意」を持っていると感じている。

8. 子どもへの認知(被害感以外)

- 7-1. 保護者は、子どもが自分になついていないと感じている。
 7-2. 保護者は、子どもは言わなくても自分の思い通りに動くべきだと感じている。
 7-3. 保護者は、子どもが自分のことを「好きではない」と感じている。

9. 拒否感・嫌悪感

- 8-1. 保護者は、子どもがかawaiiと思えていない。
 8-2. 保護者は、子どもを抱くこと(もしくは身体接触)に抵抗感を持っている。
 8-3. 保護者は、子どもを「汚らしい」と感じている。

10. 体罰に対する態度

- 9-1. 保護者は、体罰そのものに教育的な意味があると考えている。
 9-2. 保護者は、体罰は「しつけ」にとって必要不可欠だと考えている。
 9-3. 保護者は、体罰は有害であるものの、他に方法がない場合には仕方がないと考えている。
